

昭和13年4月1日（金）

晴れ。春の市、市内花丹冊にて装飾。例年雨に祟られ雨市の尊称さえありしに引換え、今年は珍しく初日より好天氣に恵まれ、北支事件参考品の其の筋出品もありて、人気を博し、人出多く相当賑わう。消耗品報告材料整備、午後五時過ぎまで費やす。朝、永江氏切手請求に行く。不在中、金貳千円の払渡しを要する分に対し資金請求の要あり。永江氏午後に至るも帰らず。余受取に行くにしても、職印を持出し居ることとて、逢わねば折角出掛けても用弁不能。愚図々々して居る間、例の払戻しを受くる人が再び来たり催促す。余気が氣にあらず。坊やを連行せし様子故、春の市に廻りしものと思料、逢われる限りに非ずと認め居りし時、永江氏販り来る。同氏受取に行く。今度は俟たせ置ける為、急いで帰局す。此夜ぼた餅、態々（わざわざ）余の為に造り呉れたる如し。さて今夜、春の市見に家族一同連行すべき目論見故、同行されたしと謂ふ。着物、巖の為に新調したるのみのを余に着せ、巖は羽織を着用せず外出す。南部小学校附近よりボンボリ両側に立駢ぶ。公園入口より中央に綱を引き、出入りを区別す。両側に物売り立並びて賑やかなり。突当たる処、六角二重の大塔を各角に電飾を廻らし景気を附く。左に廻りて第一号館あり。場内各県名産品の出陳あり。別府の竹細工は綺麗に出来て居り、値安し。宝物80及び30各一ヶ、汐汲み40を求め、猶紙屑籠30にて求め、是れは局の備付けとする為なり。蜜柑15、和博の為に求めて帰る。途中和博は巖に負われて眠る、悦子も愛子の背中にて眠る。帰宅後、坊やは起き出て悦子も目覚む。悦子は人形を買ふて貰ふ。彼此するうち十時半。子供は

再び寝に就き、余も亦寝る。

昭和13年4月2日（土）

快晴。昨夜の萩の餅を5つ食ふ。昨夜は6つ頂く。久子より白酒の注文あり。三日に秀夫を招き、桃の節句をす
るから求めて来たれとのこと故、昨夜販りに、本場と云ふ
郵便局通りを楽器屋長岡より折れて、三四丁も下りし右
側の家にて、一瓶75銭にて求めたり。一日より80銭に値
上げせしも、特に此日に限り、以前の値段にて売りと呉
れる。夫れ等土産物の外、屑籠を後刻巖届ける約束に
て、余八時出勤。昨朝中村局長官舎に至り、転任の祝詞
を述ぶ。唐津青柳氏は大牟田に、大牟田三宅氏は事務
官に昇任退官の由。此日出納計算書出し。消耗品請求
の根拠を是永氏に調査を命ず。午後一時二十分出發。
猶九時頃、巖土産品持参。女中の貯金二十五円、藤井
島子名義にて預け、通帳を巖に渡す。発車時刻十分遅
れたるも定時着。南新町下車。バス恰も到着、珍しく乗
車す。五時帰宅。夕食後新聞を見る。二階には雛人形を
飾る。人形は余程損傷を受けたるものと推察し居りしも、
思うた程の損害なかりし如し。湯暖房配らる。

昭和13年4月3日（日）

朝来降雨。細雨蕭条（しょうじょう）と謂ふ処。桜花、急
に綻び初めたる如し。十時久子に誘われデパート行。松
屋にて便箋27、全国のマークあり。特価場よりバンド及
びサスペンダー各50銭にて求め、柳町文房具紙屋より、
輪封筒40銭にて求め帰る。夕食は秀夫一家到着の際、
単独にて食したり。小豆飯、色々馳走を出す。茶碗蒸し
もあり。階下にて色々秀夫と話す。妙子も加わる。子供

等三人、四才、七才、九才。八時三十分頃眠る、十時寢床。

昭和13年4月4日（月）

朝より次第に快晴。風は疾風程度、少しく寒し。十時久子と共の外出。松屋に至り、悦子のズボン及びコンビネーション1, 10を求め、市場よりネギマグロ30銭を求めて帰宅。久子は商工会議所に、抽籤券三枚を引換えに行き、三十分遅れて帰る。風も午後より次第に静かになりたり。西公園、浄水池、油山各桜花満開の旨、電車に掲示あり。

昭和13年4月5日（火）

晴れ。手紙書きに没頭、外出せず。庭前の八重桜数輪咲く。満開は一両日後るる模様。夕方久子の要求にて、うどん及び支那うどんの馳走あり。夕方風呂に行き、髻剃りす。十時半寢床。

昭和13年4月6日（水）

晴れ。朝は冷氣強し、湯煖房を用ゆ。七時四十分出発。修学旅行の女学生の為に満員。聞けば去月十七日より宮島、大阪、奈良山田、名古屋日光、東京、京都、別府、福岡、今日帰校とあり。此朝中村局長唐津に出発。村上辰熊氏午後挨拶に見ゆ。木下君同乗、五時半帰る。二郎より百円借用方申越し。今回の旅費前借りの分、支払いを要すとあり。巖は甚だ不愉快の様子なりしも、要求通り、明朝電為替にて送付する由なり。悦子への土産を渡す。国債売捌き報労金7, 10来。余2, 00受くることとす。

昭和13年4月7日（木）

曇り、次第に嫌悪を呈す。警察より先頃の改印届の提出方を督促来る。恰度逓信局より書留にて送付ありたるを以て、余自ら出頭。署僚に面会、証拠書を提出す。刑事室にて話し引揚ぐ。ラジオ修理持参二円支払う。調節出来ず電話にて招く。巖本朝来局。百円二郎に送る。電報為替としたる為、料金九拾銭を要せり。後刻、二郎静江連名の感謝の電報届く。

昭和13年4月8日（金）

晴れ。、朝ラジオ調節の結果、聴話可能となる。アース線切断の為とあり。午前中小楠駐在巡查臨局。昨日何故来署せざりしかと尋ぬ。此日十一時頃出頭せしむべき旨、答へ置けり。守谷氏取扱者として、当時の模様陳述を要する趣なり。此日十時、耶馬溪倶楽部に於ける局長会に臨席。三十分遅る。相談所問題あり。相談所は市に於いて建設し逓信省に貸す交渉に対し、市は到底其の資産なしとて、整理区に於いて建設することとなり。一万二千八百円にて建設したるもの、各局八百円ずつ出資なるが、其の金がなき為、銀行より借用し猶借用年限の短縮を図る為、毎月参円ずつ各局より徴収し来たり、既に百七十五円余の出資ありしものなりと。余の分は其の儘となり。永江未亡人継承しありたるも、七ヶ月分未払いとなり、督促中のものなる由。既納の分を支払ひ、余継承するも可なる旨の話す。鶴居局長に於いて措置する筈。一時より午餐の支那料理を頂き、二時帰局。五時まで仕事をして帰宅。巖、明後日大貞に桜見せんとす。守屋氏警察に出頭し能わざりし。夕食を廃す、悦子に呉る。

昭和13年4月9日（土）

曇り、雨模様。長靴にて出掛く。此朝十時、守谷氏切手請求ながら警察に出頭す。正午頃帰る。大分警察で俟たされた由。余午後一時二十分出発。此日も七八分列車遅延す。福岡着は左程遅れず、五時自宅に着く。五時半夕食、五目飯。唐津橋本氏より松浦漬け送り来る。這般（しゃはん）夕飯を餐せし、其の返礼なる如し。可なり冷氣。夜湯煖房拵え呉る。風邪にてセキ出て困る。早く寢床。

昭和13年4月10日（日）

快晴、次第に花曇りと化す。紀元二千六百年奉祝。総裁に秩父宮殿下を奉載の式典を神宮外苑に挙行。ラジオにて午後一時より実況の放送あり。会長徳川家達公の挨拶、宮殿下の令旨、会長の奉答辞等より、市内女子中等学校生二千六百名参列。愛国行進曲を合唱。踊りまで台覧に供し、二時過ぎ閉式まで手にとる如く聴こえ、東京も桜花爛漫とあり。我庭前、八重桜満開。山吹も満開、躑躅花蕾漸く膨らみたり。昨夜二十銭にて夏蜜柑を求めしむ。夜降雨、音もなく濡らす。

昭和13年4月11日（月）

朝晴れ、時々曇る。二時頃より晴れ勝ちとなるも、冷氣強し。午後より手紙を書く。午前中、久子をして年金参円簗島局より受取らしむ。アルバムに写真を貼付し初む。今朝二時半便所行、それより睡られず。切手収入印紙資金を調査の結果、200円と思ひ居りしも1000円と認められ、余の錯覚なりしやに覚え候し。保管証一札入れて貰

わねば、困ることあるべきを予想さる。冷汗流れ風邪引き返せし如し。

昭和13年4月12日（火）

朝の間、晴れ曇り相半ばす。午後より次第に快晴。桜花は去る日曜日にて終局。八重桜も色褪せかけたが散りもせず。されば、散り際のおき一重桜の潔きに比すべくもあらず。鯛を求め来たり。之をヌタにして夕食の膳に上ぼす。其の他、馳走多数あるは勿体なき心地さる。ラジオ調子悪きことあり。

昭和13年4月13日（水）

晴れ。朝七時三十五分出発、混み合いたり。新聞昨夜配達なし。今朝駅にて求め、之を読み車中退屈せず。五時帰る。悦子外出遊びおる。此日報告物片付けたり。柿や芹摘みして居る。持参の黒潮一缶を贈る。余の専用束子（たわし）は風呂場に古束子と交換せしむ。

昭和13年4月14日（木）

曇り。次第に陰の天候となり、四時頃より降雨。時に或いは陽が射す。五時過ぎ飯る。ボタ餅の馳走あり。年金参円受取る。夜暴風、時々目覚む。巖に納税申告書を市役所に提出せしむ。

昭和13年4月15日（金）

晴天なるも、風猶歇まず。冷氣は昨日と略同様、可なり強し。物数計数を検討するに違算多し。初めより余が遣る方、宜しかりし。此日午後四時三十分、焦げ臭き匂い漂ふ。間もなく火事だと往来の人騒ぎ、場所の近きをも

察せられ、永江氏等騒ぎ初む。黒煙街路を掩い、騒ぎは一層激しくなる。宮崎洋服店の隣り、菓子商殿頒辰夫方裏側より発火。折柄の烈風にて旅館業武石千夫、及び宮崎直方に燃え移り、全部二階建て三戸四棟を全焼。旅館業吉本かな方三階屋根裏の一部を焼きて、同五時四十分鎮火。損害二万円。取締役集配手等、数名来たりしも入室せしめず。空き行囊（このう）の着を俟って梱包せしもの、代金引換小包、及び重要物件、搬出し得る状態に措きたるも持出すまでに至らざりし。一時は頗る落付きを失いし。六時過ぎまで整理し販る。上津局長より見舞いの電報あり。豊後町、局長代理通信手臨局。販れば巖家に居る。途中之を知り、既に鎮火せる為、販宅せりと云ふ。此日風呂沸き入浴す。風邪気味、根治せず。痔去らず。

昭和13年4月16日（土）

風収まりたるも、天候は曇り勝ち。中津新聞から近火見舞いの登載を勧誘し来る。一元やる間もなく、豊明よりも同様来局あり。之を断る。此の種の勧誘多し。午後一時二十分まで仕事をなし出発。此日は定時発車。家に到着し和服に改めて五時を告ぐ、十分程前に帰着せしものなり。久子胃腸を患い就床。伊田より久子の友人来たり、昨夜一泊、余の来著の際は外出し居れり。夕食を済まし、久子と家を出て帰途に就けり。

昭和13年4月17日（日）

曇り。六時に三十分前出発。柳町より半額電車にて県庁前下車。柳原先生奥様働きて居らる。桑原氏も居る。山崎氏は洋服着用、六時三十分頃来着。その頃、岩田屋

青年団来、応援す。七時終了。余、山崎、桑原、奥様の四名打揃って、折柄宮城病院に盲腸手術後経過良好と云ふも、猶二週間入院の要ある須藤氏を、三階同病室に見舞ふ。生田菓子店より二円にて、カステラを見舞いに持行く。同氏妻女、及び長女と末子とが一畳敷きの処に起臥し看病し居る様、気の毒なり。併し病気は順調に恢復しありとのこと。速やかに全快を祈らざるを得ず。雷鳴降雨、柳町より全く濡れ鼠となり販る。上着を脱ぎたり。足袋会社女工多数、雨を冒して遠足に出掛く。道子隣家の娘と活動に行く、20銭。蜜柑求む。午後七時出発。雨歇み碧空、雲行き穏やかなり。三十五分到着。野間先生夫人令嬢、星野先生及び松尾氏桑原氏あり。福永氏柳原先生夫人、一時間余遅れて来らる。柳原先生、松屋青年会に一週三回の会日に出席され、此日も夫れに属し九時半近く臨席。此の間星野先生より色々の質問やら述懐やら話あり。天香師に就き感じたる事柄を余より話す。柳原先生より、河上肇氏の現在の心境に就いて話あり。十時五分前に閉会。家に帰りしは十一時近かりし。福永氏新柳町に用弁、途中まで一緒に来る。今日の集まりは甚だ少なかりしとて、福永氏より意見あり。月清し。

昭和13年4月18日（月）

此日晴天と思いきや、積雲罩（こ）め冷氣強し。火鉢に火を移せしも時節柄珍らし。午後一時より、西中洲宮城外科病院に須藤氏を訪ふ。二時間半程話す。小島氏も来らる。余は同氏より少しく先に、暇乞いをして販る（市場より林檎7銭のを13、外に入り物を併せ95銭）。橋詰歯科医を訪ふて、道子に対する斡旋の礼を述ぶ。呼子の話などして販る。夫人は呼子の人、中尾氏と向かい合わせに

住み親友なりし由。次いで住吉新屋山崎氏を訪ふ。桑原氏居らる。少時話して昨立替カステーラ代、余と山崎氏とにせんと思ひしに、柳原夫人は当時50銭支出されたるやにて、一円五拾銭を折半し、各75銭づつ出資することとなりたり。六時近く辞去す。今朝より久子起き床払いす。午後より天候恢復す。静江氏より来信。四月十二日附け、鉾山監督局技手月俸70円なる由。曩に65円にて採用とあり。今70円と申越す、果たして信じ得るか。中に道子への手紙あり。

昭和13年4月19日（火）

晴れ、風頗る強し。アルバム貼付。久子道子、大中館に活動に行く。五時頃帰宅。剃刀研ぐ。夜理髪、髯剃りす。昨夜より湯煖房を廃す。今夜も非常に暖かなり。

昭和13年4月20日（水）

七時三十五分、パン食を済まして出発。徒歩、定時発車。乗客少なく後車最も空隙あり。朝の内新聞を通読して、ラジオ講演講座を読み、猶終わらざるに到着す。鶴居局長、昨日も臨局されたる由なるも、本日再臨局。相談所問題を永江氏を前にし結論を徴さる。初めより権利を余に移行することに折合ふ。同氏栄町局に行き、従来掛金の総高を調査し、通知することになり販らる。此日曇り。パウリッチ伊太利使節団一行、午後二時過ぎ来津。擾騷敷き計り通行人多し。四時過ぎ出発。此の時永江、是永両氏駅に駈付く。五時販る。

昭和13年4月21日（木）

曇り。午後一時より中津局村上局長に面接、三十分以上

局長室にて話す。販りに歳入金受入証明書を西田君より貰ひ受け、局前文房具店より、綴り紐十本分海綿湿器15を求めたり。此日鶴居局長より明細書来る。それによれば百壱円とあり。猶七ヶ月分二十一円、未納となり居る旨通知。即ち一円を余の懐より渡し、百円は切手代保管通帳中より払戻し補填のこととせり。販る頃降雨、和傘を持たせらる。途中富士紡附近にて、女中が余の為に傘を持参越すに会す。頃日雨歇む。永江氏より借用の分すら厄介視するに、その儘一緒に帰る。遂に本降りに至らずして落付く。風呂沸き一着に入浴す。

昭和13年4月22日（金）

曇り。午前中昌江来る。美松商事株式会社専務取締役とあり、偉ら相な重役の名刺に名前も碌々見ずに迎えんとしたるも、松川とあり、不思議に同姓もありしよと起ち乍ら名刺を熟視、其の弟なるを知り、局に召して三四十分間話す。野村生命よりの招待、伊勢詣での慰安会に列席しての帰途なりと謂ふ。胃腸を害し酒を飲み不能、顔色蒼白形容枯槁せり。身体に異状ある者、親類廻りして揚げ句死去する例多し。昌江も其の亜流かと恠（あやし）まる。併し人物の正直な点もあり、神は直に見切ることはあるまじと思わる。巖へ至る道順を図表して遣わす。永江氏より百一円に対する受領証一札送らる。五時退局。昌江座敷にて酒盃を手にし居る。余り飲まず。余至り、間もなく飯にす。黒潮の件、駒次一件も詳しく聞く。福岡空き地の問題にも移る。十時寢床。概要表発送す。

昭和13年4月23日（土）

曇り、次第に霽れ来る。昌江海に貝拾い。十一時四十分

タクシーにて出発。拾いし貝一升五合程、土産に持参せりと巖より通知あり。午後一時二十分出発。恰度出発を前にし逋信局より文書来る。返事を保留して出発す。碧空を呈して陽の射す方の窓端に居る者は、熱くして汗出づ。珍しき高温なり。五時帰宅して水浴す。此の夜早く寢床。秀夫、三谷より贈り越せし味噌漬け持参せり。余も下に降りて話す。取扱上の問題に及び、法規を示して解決す。月掛貯金は期間内払戻し不能の件も判然す。十時半帰る。濃い茶を呑嚙み安眠出来ず。加之、蒸し暑く毛布を排除す。うつらうつらする間にベル鳴る。仍（よ）って起床す。夜は興奮を誘ふもの食すべからず。

昭和13年4月24日（日）

朝晴れ、次第に曇り。須藤氏を宮城病院に訪ふべく十時出発。途中簗島局に寄り、電話にて宮城病院に須藤氏の在否を質し、居るとの返事に氏を訪ふ。桑原氏居らる。一時間半程居る。氏起きて居り間もなくベッドに横臥さる。誰か知人の見物客あり、乃ち機会に販る。市場より若布（わかめ）20、煎り魚18、榊2本5銭求めて帰宅。久子ネギマグロ15銭求めて居る。須藤氏は明日退院の由、十時頃なるべしと謂わる。併し出発は午後一時頃になる模様なり。桑原氏も直後販らる。氏は自転車、余は県庁前より電車。久子天勝観を誘ふ、今度のは本物らし。夕飯は少し早くせしも行かざりき。昨日に変わり、再び冷気を催すに至る。澄子に明日、何か須藤氏の為に作り呉れと頼む。萩の餅を拵えるらし。

昭和13年4月25日（月）

朝の内曇り。冷氣、引張りを着用。九時四十分出発。萩

の餅、一重持参。須藤氏の姉さんと云ふ方見え、其の人より布団と、附添いなる奥さんの三度の食事等届けらるる由。十一時過ぎ桑原氏来。正午余持参のお萩と、桑原氏よりの注文になるうどん蕎麦と、須藤氏夫妻、姉さん、十七計りの姪及び桑原氏とにて午餐を済まし、一時半、タクシー7, 50に収まり三十五分出発。寝巻、毛布、枕、上敷き等にて布団袋一個、大トランク、小荷物数個あり。天候快晴。快適の旅行李（たびこうり）とて、二週間の過去の苦悩を精算したる思い出を回想して、更生の意気に燃えつつ退院の喜びは、其の人のみの知る境地なるらし。昨日入り来たりし老人は三村寅次郎と謂へ、過去に措いて二瀬に住し、須藤氏と隣り同志の間に在り、今は別府に住み、二十六組の結婚の世話をなしたる由。此の日も其の問題にて来たりしと云ふ。女は電話局の監督をなし二十七才。父は物産陳列所に出勤し居るも、給料は一番多額を受け居り、妹を高女に弟を小学校に出し、母は病気の為、差当たり他に嫁（とつ）げぬと云ふ。それを希望する者あり。三村氏の家にて、相手の男の家にて女の回答を待侘び居るとのこと。余に色々暗示せしめらるること多し。同氏を訪ふこととし、須藤氏より名刺を貰ふ。久子、今日も天勝に行かぬかと誘引す。行くを欲せぬ旨話す。間もなく三人一緒に行くことになり、余留守を承る。五時前出発す。須藤氏より重箱に蜜柑数個、梨子大一、林檎五個土産に頂く。九時三十分、皆販らず。十時を過ぎて販る。余は九時四十分頃床に入る。其の儘ラジオを聞く。

昭和13年4月26日（火）

靖国神社臨時大祭。聖上御拝。十時十五分、国民一同

東方に向かって黙禱一分間。恰度、下の座敷に居る久子澄子と共に黙禱を捧ぐ。十一時高等学校、先の三村寅次郎氏を訪ふ。途中渡辺通一丁目まで久子と一緒にいき、ペンチ50、捻廻し10求め、蜜柑10求めたり。0時15分三村氏を訪ふ、不在。下宿の学生取次に出現、名刺を差措き販る。昨夜より冷氣強く、今朝羽織を着用して外出す。家に国旗翩翩（へんぽん）。別府に行くにつけ髯剃りす。午後四時、栗原弥太郎氏来宅。ラジオ講習会に出席の為、午後出発。先刻到着の由。宿舎も決定せしことなれど泊めることにせり。夕食後風呂に行く。湯錢四錢より五錢となる。札十枚四十五錢。販りに日本足袋近所まで散歩。下座敷にて少時話し、十時寢床。

昭和13年4月27日（水）

降雨歇まず。余は下にて食事を済ます。七時二十分栗原君と共に出発。久子にバス停留所まで一緒に来て貰ひ、傘を持販らしむ。駅着七時五十分、新聞を求め途中読む。満足に目を透かし得ざりを以てなり。中津にても雨、併し余程量少なし。給料支払い。鉄鋼書類入れ、大阪雄工社より購入を図り、七拾九円を永江氏をして例の貯金より支出せしむ。是れにて相談所分と合わせ百七拾九円となりし。女中来たり長靴と洋傘差措き、短靴持去る。月曜日葉書受取に行き兼ね、今度は何日にするかと問い来る。月曜日は釣魚、百余尾を獲、之を軟らかく煮付けたるを余にも食膳に供さる。骨まで食べらるる為、甚だ美味なり。鮎多し。其の為、葉書搬入し得ざりしものの如し。五時過ぎ販る。雨歇む。洋傘お供に持行くこととなる。トマト拾本、胡瓜拾本移植しあり。二錢五厘ずつ故、五十錢分植ゆ。

昭和13年4月28日（木）

朝晴れ、後幾分曇り。区画便覧訂正、色々仕事して午後一時二十分発車。中陽の射す方向は頗る熱し、汗流る。五時に二十余分前、家に到着せしは四時五十三分。余飯るを予期せず、残飯も美味しく頂く。此日巖朝早く起床、七時より釣竿を持ちて出発す。五里を隔つ耶馬溪に行けり。余の為、大いに釣りに馳走せんと意気込めるなり。広美の為、媒介の労を採る小柳氏に面会せんとしたるも、時間に余裕なく福岡に来る。

昭和13年4月29日（金）

天長節。余も手伝ふて国旗掲揚。此朝久子に余の顔の腫物、執拗に治らぬを以て薬を調剤。豚脂はラードを別に購入することにし水テール、硫黄華、亜鉛華各五匁丈依頼し、豚脂は山形屋の肉屋より百匁35にて求めしむ。然るに薬師は豚脂の必要を知り調剤し呉れ、行違いに肉屋が来たり百匁注文したり。後刻澄子が取消しに行きたるらし。薬価50銭。薄曇り、気温は暖かなり。額一面に薬を塗抹す。近所で大掃除、畳の塵を払ふ音響く。二十四日付き二郎より葉書あり。仙台市西文化町三四とあり。是れにも十二日付き商工省より辞令を受け、仙台監督局在勤とあり。これ迄は先便と一致す。須藤氏よりも感謝の挨拶あり。二十六日より出勤し居る由。小柳氏の広美への媒介に付いては、名前も年令も何も分からず、更に照会せり。午後三時三十分、栗原氏来。二十分計り饒舌って去りぬ。歩くことが好きな人として、何処となく歩くものと見らる。

昭和13年4月30日（土）

晴れ、風強し。本日より招魂祭。久子に年金受領証を局に取りに遣りしに、其の他の品物を求め来たり。受領証を持来たらず。友達と何処にか行きぬ。増田翠子より手紙来。広美結婚に対し、余に調査方依頼越せるもの。余は広美の態度に慥（あきた）らぬ点多きを認め、序でに注意せり。先ず第一に余の許に来たり意見を求むるか、手紙にて尋ねるが順序にて、余より増田に通知すべきものにあらざるか、一切を余に任せた以上、それが当然と思料さる。此等の点に対し翠子に申送る。一時、簗島局に至り年金六円受取る。松囃子を見に行かんとせしも、一旦立ち販りぬ。久子夕食後暫くして販宅。年金受領証は持来たりし俣、飛出せしこと判明。